

人とのつながり

福田 浩尚

三月十一日に東北関東大地震が起こつた。マグニチュード9という未曾有な大きさで惨事は眼をおおうばかりである。地震が終わつても不幸は終わらない。電力、水、燃料、薬品、食品と不足し被災地では生き延びるのにやつとという情況が続く。この日の翌日近くのスーパーに買い物に行つた。ところが行つて驚いた。納豆、牛乳、パンなどの食料品の棚が空っぽなのだ。見るとレジにならんでいる買い物籠の中にはこれらの食料品だけではなく、米袋を幾つもいれている人々もいる。どうやら、物が不足するあるいは物価が上がるのを見越して買いだめをしているようだ。何年か前、トイレットペーパーにむらがある現象があつたが今回はスケールが断然大きい。

これをみて、芥川龍之介の書いた「蜘蛛の糸」という短編を思い出した。「カンダタ」という名前の悪人が、極楽のお釈迦さまが垂らしてくれた蜘蛛の糸にすがつて地獄からはいあがろうとしている。だが、自分の下を見ると同じように這い上がるうとする者が細い糸にすがつて

上つてきている。カンダタが「下りろ、これはおれの糸だ」と怒鳴つたとたん糸が切れてまた地獄へ落ちてしまつたという話である。人が苦難にあつたとき人を押しのけてでも自分だけが助かるうとしたもののあさましくも哀しい結末である。今、この災害で起きていることはこれでなければよい。一方では、自分の身を省みず犠牲者のために献身的に奉仕している人々もいる。同じ人間でありながらなぜこんなに大変な違いとなるのだろうか。どうか、極楽にいらつしやるお釈迦さまもこのような立派な行為をしている人々には太い切れないロープを垂らして救いの手をのべてやつて欲しいものである。